

平成20年4月16日

京情協 地域情報化委員会（20年度 第1回） 議事録

開催日時：平成20年4月15日（火） 17:00～18:00

開催場所：京都コンピュータ学院駅前校 新館 4階 会議室

参加者：相原、中井、松本、福本、桧山、中川、桂田（敬称略）

配布資料：地域情報化委員会（第1回）議題、添付資料①～資料③

議事：

1. 各委員の紹介（資料①）（中川から報告）

- ・新規委員として相原氏（バンテック）、中井氏（京信システムサービス）があらたに参加される事になった。松本氏（ビーネット）も前はオブザーバーとしての出席であったが、今回より正式に委員として参加される事になった。また次回から竹中氏（ティジエール京都支店）も新たに参加される予定。
- ・既存委員についても一覽で確認した。

2. 府立植物園ユビキタス実証実験の参加報告（資料②）（中川から報告）

- ・国土交通省では、ユニバーサル社会の実現に向けた取り組みの一環として、社会参画や就労などにあって必要となる移動等に関する情報を、ユビキタスネットワーク技術を活用し、「いつでも、どこでも、だれでも」が利用できる環境づくりを目指す「自律移動支援プロジェクト」を推進しており、全国の都道府県でも実行委員会を立ち上げ活動を行っている。
- ・京都でも「京都自律移動支援プロジェクト実行委員会」があり、中川が委員として参加している。無線ICタグを利用した実証実験が3月に府立植物園で行われ、桧山氏、中川、桂田の3名が参加し、以下の報告を行った。

【参加報告】

- ・手首に装着するICタグリーダーと首からぶら下げる情報端末の2つを持ち園内を散策、各所に設置しているICタグプレートを読み取ると、付近の植物の詳しい解説情報を画面で確認出来るとともに音声ガイドが流れた。
- ・また、北山門に向かうコースや自由散策コースがあり、コースを選択すると周辺地図が情報端末に表示された。
- ・情報端末の画面が暗く見づらい、ICタグプレートが場所によっては奥まっっており見過ごしやすく障害のある方にとっては不便、イヤホンは両耳に装着するが会話しづらいため片耳だけに装着したといった感想を抱いたが、総じて興味深く散策出来た。
- ・上記の感想は、次回の「京都自律移動支援プロジェクト実行委員会」（6月予定）にて中川が報告する。

3. 平成20年度活動計画について（資料③）（中川から報告）

- ・下記1)～11)の活動を今期行う。それぞれの具体的な活動内容については次回委員会（6/17）までに確定する。次回委員会までに進められる部分については進めていきたい。
- ・アイデア・ご意見があればぜひ、それまでに連絡を頂きたい旨、委員長より依頼した。
 - 1) 大学との連携（担当：福本氏）

- ・前期に4校訪問したが、売り手市場ということもあり、ランクの高い大学ほど京情協からの提案に対し消極的であった。但し、引き続き連携は図っていきたいと考える。
- ・学生のための業界研究に参加／協力を試験的に行ってはどうかといった意見も出ている。業界研究の場合、有名な講師でないと学生が集まらないという話を大学から聞いているため、いかに興味のある講師・テーマで学生をひきつけるか費用を含めて検討が必要となる。今後、こういった形で連携を図っていくかを検討する。
- ・なお、当件に関し中井氏より「合同企業説明会ではネームバリューのある企業に学生が集まるため、大学と連携して積極的にこちらから情報発信し、ITのネガティブなイメージを払拭する、モノづくりの面白さ・やりがいを伝えることが必要」との発言があった。長期的な視点で地道に啓蒙活動を行っていくしかないとの話も出た。

2) 人材確保・定着・育成 (担当：桧山氏)

- ・前期は新卒採用に特化した人材確保のみに活動を絞っていたが、今期は中途採用も含めた人材確保ならびに確保した人材をいかに定着させ育成するかにまで活動範囲を広げ、取り組んでいきたい。
- ・中途採用については雇用・能力開発機構との連携が可能かどうかの検討も行いたい。
- ・人材の定着・育成については各社共通の課題であると思われるため、人間力を養う研修・新人の合同研修（ビジネスマナー、コンピュータ基礎など）をスケールメリットを活かして実施したい。出来るところから着手していきたい。
- ・各企業で困っている事、こんな事したら面白いのではないかというアイデアがあればぜひ教えて頂きたい。
- ・前期好評だった採用支援セミナーについては、今期2回の実施を予定。うち1回については掘り下げ面接の仕方など新卒・中途を問わない内容でやることも案として検討している。
- ・当件に関し相原氏より「新入社員向けの研修があれば嬉しい」、松本氏より「内定辞退を防ぐための方法、未経験者の適性を面接で見極める方法などを知りたい」旨の要望があがった。

3) 会員への情報発信 (担当：桂田)

- ・前期に引き続き「採用耳より情報」を発信する。
- ・採用以外に何か面白い情報も発信出来ればと考えている。

4) 他の委員会との連携

- ・広報委員会とは、採用耳より情報で連携を図っているが、今後より深い連携を図っていききたい。その布石として次回の広報委員会に中川も出席することにした。
- ・広報委員会だけでなく、経営委員会、技術委員会とも連携を図っていききたい。
- ・相原氏は経営委員であり、桂田もなるべく経営委員会に出席することにより、先での連携を考えたい。
- ・技術委員会とは、例えば社員教育での連携（技術研修は技術委員会、ヒューマンスキルは地域情報化委員会といった形での連携）が可能ではないかと考えている。

5) 他の団体との連携

- ・京都ベンチャービジネスクラブ (KVBC) との連携を図っていききたい。

- ・KVBC の人材ネットワークプロジェクトが進めている合同企業説明会(学情とジョイント)については参加費用が9万円ということもあり、費用対効果の十分な検討が必要と考えている。5/15 の合同企業説明会に参加した上で、2 回目、3 回目にジョイントするか判断したい。

6) その他

- ・将来的には、コンテストの実施、KCG が検討していた高校生向けセミナーへの協力、助成金の活用なども行っていきたい。
- ・地域情報化委員会として一番行いたい事は、「(市民などに) 外向きに発信・活動する」事。対外的な活動は会員向けの活動と比べ非常に難しいが、出来るところから行っていきたい。そういう点で大学との連携はぜひ継続してしていきたい。

7) 賀詞交歓の新春セミナー (担当: 全員)

- ・夏頃からテーマ・講師・時期の検討を開始する。

8) 京都自律移動支援プロジェクト実行委員会 (担当: 中川)

- ・技術検証部会の委員として委員会及び実証実験(宇治市の宇治橋周辺 9月頃)に参加する。

9) IT コンソーシアム京都との連携

- ・以下の4部会で何らかの活動があれば、責任者が委員会に出席、会員へ動きを広報する。
 - ・ネットワーク部会 (責任者: 桧山氏)
 - ・医療情報化部会 (責任者: 中川)
 - ・地上デジタル放送部会 (責任者: 中川)
 - ・情報セキュリティ部会 (責任者: 福本氏)

10) 他府県の情報産業団体との連携、情報収集 (担当: 小林氏、和田氏)

- ・他府県の情報産業団体の活動実態を知ることにより、本協会が学ぶべき点、活動に取り組んだ方が良い点を反映していきたい。

11) 京都産業 21 との連携 (担当: 中川)

- ・京都試作センター(株)の動きに着目し、必要に応じて会員へ情報を広報する。

以上